

# 二条大麦新品種「サチホゴールド」の高品質・安定多収栽培法

## 1. 試験のねらい

2005 年度に栃木県の奨励（認定）品種に採用されたサチホゴールドは、高品質・多収品種であり、今後の普及が期待される。そこでサチホゴールドの優れた特性を発揮させる栽培条件（施肥量、播種量および播種時期）を検討する。

## 2. 試験方法

試験は農業試験場栃木分場圃場（水田裏作圃場）で、2004～2006 年の 3 か年実施した。

施肥量・播種量の検討では、施肥量 3 水準、播種量 3 水準設定し、農業特性、麦芽品質を調査した（表-1、2）。播種時期は標準播（11 月中旬）とした。

播種時期の検討は、播種時期 4 水準設定し、農業特性、麦芽品質を調査した（表-3）。施肥量は N6.5kg/10a、播種量は 8.5kg/10a とした。

表-1 施肥量の処理概要

処理水準	N 量 (kg/10a)
少肥	4.5
標準肥	6.5
多肥	8.0

表-2 播種量の処理概要

処理水準	播種量 (kg/10a)
少播	約 7.0
標準播	約 8.5
多播	約 10.5

表-3 播種時期の処理概要

処理水準	播種時期 (月/日)
早播	10/25
標準播（早）	11/5
標準播（遅）	11/15
遅播	11/25

## 3. 試験結果および考察

### (1) 施肥量について

穂重型品種であるサチホゴールドの収量向上には、穂数の確保が特に重要である（図-1）。少肥栽培では穂数が少なくなり、大きく減収となるうえ、側面裂皮も増加する（図-2、3）。施肥量を増やすことにより、穂数は増加し、側面裂皮は減少する傾向があるが、麦芽粗蛋白質含量は高くなりがちであるため、極端な多肥栽培は避ける（図-2、3）。

### (2) 播種量について

多播により穂数がやや多くなる傾向があるが 1 穂粒数、千粒重が小さくなるため（図-4）、増収効果は無い（データ省略）。一方、少播は麦芽粗蛋白質含量が高くなりやすい（データ省略）。

### (3) 播種時期について

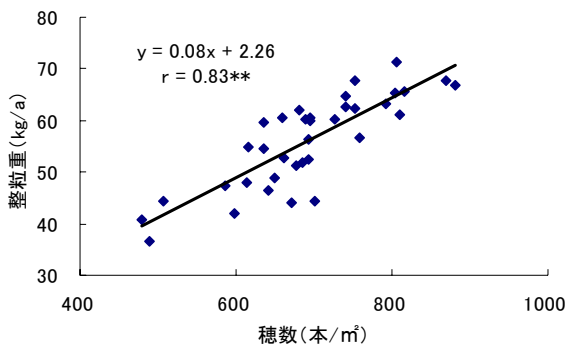
早播（10/25 播）は穂数確保には有利であるが、側面裂皮の増加、整粒歩合の低下を招く（図-5、6）。遅播（11/25 播）では麦芽粗蛋白質含量が有意に増加し、麦芽エキスが低下する（データ省略）。

(4) すなわち、サチホゴールドの高品質多収栽培には、①穂数の確保、②側面裂皮の抑制、③蛋白質含量の安定が重要であり、施肥量は標準からやや多肥栽培（N6.5～7.5kg/10a）、播種量は標準量（8.5kg/10a）、播種時期は標準（11/5～11/20）が適当である。

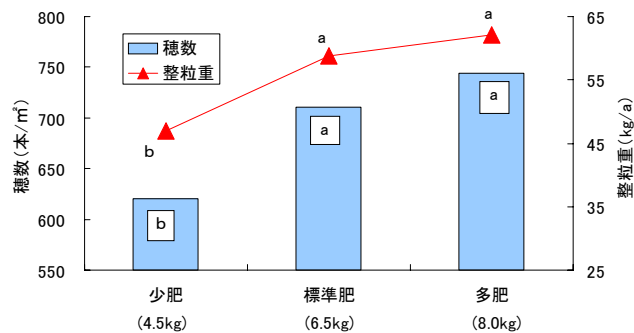
## 4. 成果の要約

サチホゴールドの窒素施肥量は、穂数を確保し収量・麦芽品質が安定する標準施肥栽培からやや多肥栽培の N6.5～7.5kg/10a が、播種量は 8.5kg/10a が、播種時期は被害粒の発生が少なく麦芽品質が安定している標準の播種時期（栃木県南部 11/5～11/20）が適している。

（担当者 栃木分場 ビール麦研究室 渡邊浩久）

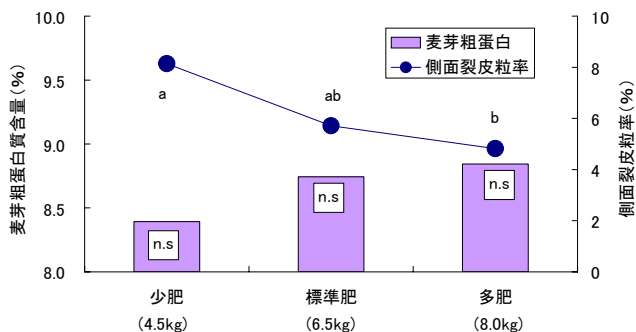


図一 サチホゴールドにおける穂数と整粒重の関係



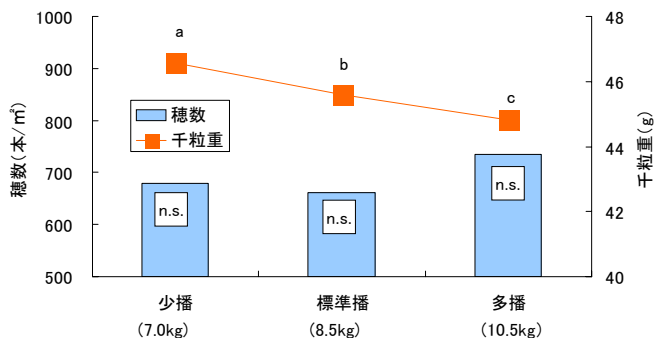
図二 施肥量と穂数・整粒重の関係

注1. 異なるアルファベット文字間では5%水準で有意差有り(最小有意差法による)  
2. ( )内の数字は10aあたり窒素施肥量



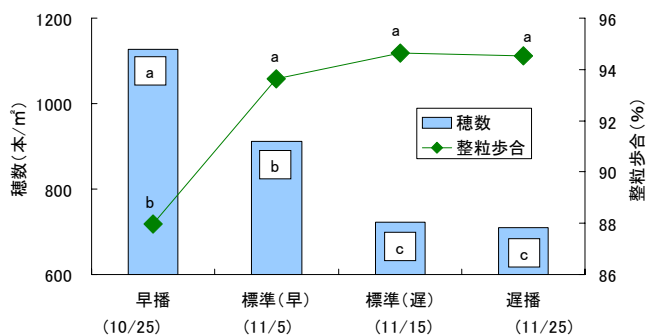
図三 施肥量と麦芽粗蛋白・側面裂皮粒との関係

注1. 異なるアルファベット文字間では5%水準で有意差有り(最小有意差法による)  
2. ( )内の数字は10aあたり窒素施肥量



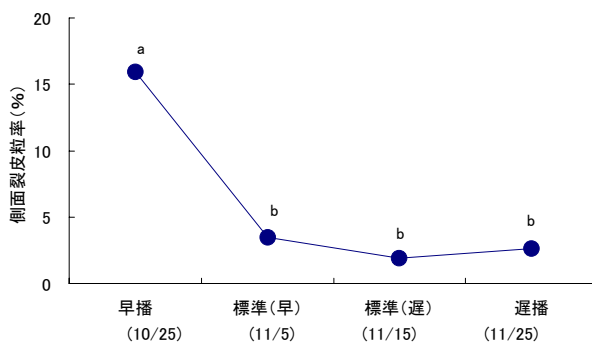
図四 播種量と千粒重・穂数の関係

注1. 異なるアルファベット文字間では5%水準で有意差有り(最小有意差法による)  
2. ( )内の数字は10aあたり播種量



図五 播種時期と穂数・整粒歩合の関係

注1. 異なるアルファベット文字間では5%水準で有意差有り(最小有意差法による)  
2. ( )内の数字は播種時期



図六 播種時期と側面裂皮粒の関係

注1. 異なるアルファベット文字間では5%水準で有意差有り(最小有意差法による)  
2. ( )内の数字は播種時期